

平成24年度
実施事業

事務事業名	防災対策強化事業
-------	----------

区分	No	名称
章	2	自然とともに暮らすまち
節	3	安全に安心して暮らせるまちづくり
施策	1	総合防災体制の整備
小分類	2	防災体制の確立
主要な施策	1	①防災施設及び設備の適正管理
事務事業番号	002	事業開始年度 平成 24 年度 事業終了年度 平成 ー 年度 会計種別 一般会計

部 名	総務部	グループ名	総務グループ
-----	-----	-------	--------

事務事業の概要 《Plan・Do》

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	平成24年6月に北海道が公表した北海道太平洋沿岸の津波浸水予測図では、市内のほぼ9割が浸水すると予測され、災害発生後も命をつなぐための防災備蓄を平時から行っておく必要があることから、地域の拠点へ年次的に防災備品等を備蓄する。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成24年度の実績を具体的に記入してください)
	【事業実績】 ・非常食 3,522食 ・非常持出セット等 5セット ・毛布 90枚 ・ハンド型メガホン 10台 ・LED懐中電灯 10台 ・災害弱者用避難所テント 20張 ・ブルーシート 100枚 ・防災用ベスト 150着 ・避難所用ラジオ 10台 ・車載用防災行政無線 1台 ・車載用拡声器 2台 ・海拔表示看板 100箇所(200枚)設置
今後の方向性	(次年度以降の事業展開における改善など今後の方向性を具体的に記入してください)
	平成25年度からは、平成24年11月末の大規模停電を踏まえ、冬期の停電等を視野に入れ、年次的に防災備品等の備蓄に努める。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)
	登別市地域防災計画

事業費(財源内訳)の推移 《Plan・Do》

区分		単位	H23年度 決算	H24年度 決算	H25年度 当初予算	H26年度 見込	H27年度 見込
国庫支出金	名称	千円					
道支出金	名称	千円		500	2,800	2,800	1,600
地方債	名称	千円					
その他	名称	千円					
一般財源	名称	千円		4,329	3,368	2,972	1,685
事業費 合計			0	4,829	6,168	5,772	3,285

指標の推移 《Check》

区分		単位	区分	23年度 実績	24年度 実績	25年度 目標	26年度 目標	27年度 目標
成果 指標	① 非常食の備蓄状況	食	目標値	4,356	9,482	12,532	16,482	19,382
			実績値	4,356	9,482			
	② 発電機の備蓄状況	台	目標値	0	5	8	11	14
			実績値	0	5			

比較		《Check》
平成24年度実施以前又は実施中に見られた課題、問題点等	左記の解決に向け行った取組や対策、工夫等	
<ul style="list-style-type: none"> ・非常食の備蓄は平成24年6月に北海道が公表した北海道太平洋沿岸の津波浸水予測に対応していない。 ・防災備品等を整備することにより、保管するスペースが必要となる。 ・冬期の災害に対応した備蓄品が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常食の備蓄目標を高め年次的に整備することで、更新時の負担を分散させる。 ・広域的な避難所となる公共施設の一部を、新たに備蓄倉庫に位置づけ備蓄する。 ・冬期の避難所で使用する毛布、暖房器具等を各地域の拠点となる施設に備蓄整備する。 	

担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可） 《Check》

1. 事務事業の妥当性について		
市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？	<input type="radio"/> ① 市が主体に行うべき事業である <input type="radio"/> ② 民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である <input type="radio"/> ③ 国、道、他団体等との連携や広域化が可能である <input type="radio"/> ④ 国、道、民間等の事業と重複・類似している	判断理由及びその他所見 防災備蓄品を全て行政が備蓄することは、財政的に困難であることから、一定程度の備蓄をすることとし、市民にも家庭での備蓄を呼びかけるとともに、民間のレンタル会社などと協定を締結し対応している。
2. 事務事業の必要性について		
市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？	<input type="radio"/> ① 市民、団体等から具体的な要望がある <input type="radio"/> ② 市民アンケートの結果から必要性が高い <input type="radio"/> ③ 社会情勢、地域事情等から必要性が高い <input type="radio"/> ④ 市民の大部分が関連することから必要性が高い	判断理由及びその他所見 災害発生後も命をつなぐための防災備蓄を平時から行っておく必要があることから、避難所開設にあたり、毛布や非常食、ラジオなどの防災備蓄品が必要である。
3. 事務事業の効率性について		
事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか？	<input type="radio"/> ① 低予算、少労力で高い効果をあげている <input type="radio"/> ② 市で実施するほうが民間委託より効率性が高い <input type="radio"/> ③ 多額の経費や労力を要するがやむを得ない <input type="radio"/> ④ 将来的に効率性を向上できる	判断理由及びその他所見 民間のレンタル会社などと協定を締結し、災害時には防災備蓄品を借用できるが、迅速な避難所対応をするためには、避難所等にあらかじめ防災備蓄品を用意しておく必要があるため。
4. 事務事業の成果について		
目的を達成するための成果はあがっていますか？	<input type="radio"/> ① 成果指標の向上が見られる <input type="radio"/> ② 市民、団体等の声から成果を感じられる <input type="radio"/> ③ 目に見える形で成果があがっている <input type="radio"/> ④ 成果の把握は困難である	判断理由及びその他所見 非常食などの防災備蓄品の備蓄数が年々増加している。

①担当グループによる評価 《Check》

維持	左記の評価を選択した具体的な理由(根拠)	津波災害など大規模な災害に対応するためには、災害発生後も命をつなぐための防災備蓄を平時から行っておく必要があることから、避難所で使用する防災備蓄品の備蓄が必要であるが、一度に整備することが困難であることから、年次的に備蓄する。
-----------	----------------------	---

②行政評価会議による評価 《Check》

維持	備考	
-----------	----	--